

## 平成17年度第1回おおいた子ども・子育て応援県民会議会議録

日時：平成17年7月19日（火）10:20～11:50

場所：大分センチュリーホテル2階「桜の間」

1. 開会
2. 委員紹介
3. 会長、副会長の選出
4. 会長挨拶
5. 議事  
「おおいた子ども・子育て応援プラン」及び県民会議の役割  
県民会議の今後の取組  
意見交換
6. 閉会

### 1. 開会

【司会】 ただ今から「第1回おおいた子ども・子育て応援県民会議」を開催いたします。本日は、皆様方には何かとお忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます次世代育成支援課の後藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

県では、会議は公開を原則としております。本日の会議も公開にして行うこととしておりますので、傍聴席を設けております。

また、会議録や会議資料につきましては、原則として全て県庁ホームページに掲載することとしておりますので、ご了解いただきたいと思います。

本来ですと、ここで知事から開会に当たってのごあいさつを申し上げるべきところでございますが、所用がございまして、途中から出席させていただく予定でございます。大変申し訳ございませんが、後ほど知事からごあいさつをさせていただきます。

また、委員の皆様には、委員ご就任の委嘱状をお一人ずつ知事からお渡しすべきところでございますが、時間の関係もございまして、お手元にお配りさせていただいております。ご了承くださいませよう、どうぞよろしくお願いいたします。

### 2. 委員紹介

【司会】 それでは、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。

五十音順にお座りいただいておりますので、配席順にご紹介させていただきます。

公募委員の青柳理郎委員でございます。

大分県小中学校長会協議会の阿部三四子委員でございます。

助産師の安倍本子委員でございます。

大分県社会福祉協議会の池邊廣司委員でございます。

公募委員の石和真紀子委員でございます。

大分県高等学校PTA連合会の馬越敦子委員でございます。  
別府大学の大嶋美登子委員でございます。  
大分県児童養護施設協議会の太田恵子委員でございます。  
別府市福祉保健部の岡部光瑞委員でございます。  
公募委員の後藤みか委員でございます。  
フリーアナウンサーの後藤美和委員でございます。  
NHK大分放送局の佐伯真規委員でございます。  
大分県中小企業団体中央会の佐藤哲也委員でございます。  
大分県商工会議所連合会の柴田文子委員でございます。  
大分県青少年団体連絡協議会の白根直樹委員でございます。  
大分県経営者協会の仙波美鈴委員でございます。  
日本労働組合総連合会大分県連合会の高浦加代子委員でございます。  
公募委員の瀧本久美委員でございます。  
(株)エフエム大分のTOM G委員でございます。  
社会保険労務士の西村慶治委員でございます。  
大分県高等学校長協会の波多野順代委員でございます。  
(株)大分放送の藤川和子委員でございます。  
大分県医師会の藤本保委員でございます。  
大分県私立幼稚園連合会の牧野由子委員でございます。  
大分県民生委員児童委員協議会の三宅桂子委員でございます。  
大分大学の山岸治男委員でございます。  
大分合同新聞社の山本吉純委員でございます。  
大分県PTA連合会の吉川喜代美委員でございます。  
大分労働局の吉竹浩一委員でございます。  
なお、本日は、31名中29名の委員の方にご出席いただいております、大分県保育連合会の安東知子委員、大分県商工会連合会の生島雄作委員が所用のため欠席でございます。  
続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。  
まず、阿部福祉保健部長でございます。  
一宮福祉保健部審議監でございます。  
寺本次世代育成支援課長でございます。  
安見次世代育成支援課参事でございます。

### 3. 会長、副会長の選出

【司会】 続きまして、設置要綱第3条の規定により、会長及び副会長の選出に移らせていただきます。

委員の皆様から立候補やご推薦がございますでしょうか。

(「事務局案はありませんか。」との声)

【寺本課長】 次世代育成支援課長の寺本でございます。

初めての方も多くいらっしゃいますので、事務局案を提案させていただきたいと思っております。  
会長を山岸委員、副会長を大嶋委員にお願いいたしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(「異議なし。」との声)

【司会】 ありがとうございます。

委員の皆様方のご賛同をいただきましたので、山岸委員に会長を、大嶋委員に副会長をお願いしたいと思います。

それでは、山岸会長、大嶋副会長、前の席へお移り願います。

【司会】 それでは、これより議事に入らせていただきますが、最初に山岸会長にごあいさつをお願いいたします。

併せて、設置要綱第5条の規定によりまして、以後の議事進行を山岸会長をお願いいたします。

#### 4. 会長挨拶

【山岸会長】 それでは、大役ですけど、皆様のご協力を得て、この役を務めさせていただきますと思います。よろしくお願いいたします

それでは、簡単にごあいさつ申し上げます。

おおいた子ども・子育て応援県民会議の会長を仰せつかりました山岸でございます。お隣りの大嶋副会長ともども、よろしくお願いいたします。

急速な少子化の進行は、将来の社会や経済のシステムに大きな影響を与えることが懸念されており、少子化問題は、私たちが取り組まなければならない最も重要な課題であると認識しております。

次代を担う大分の子どもたちが生きる喜びを感じ、心豊かでたくましく育つとともに、安心して子どもを生み育てることに喜びや希望を感じることでできる地域社会をつくるためには、少子化の現状やその影響、少子化対策の必要性について県民理解を深めるとともに、家庭や地域、職場における男女共同参画の推進、職場優先の企業風土の是正など県民意識の醸成を図り、子育てを社会全般で支援するための環境づくりを県民一人ひとりが考え行動することが必要であると考えております。

委員の皆様方には、それぞれのお立場から、日常の経験も踏まえ、様々な意見をいただきますようお願い申し上げますとともに、本会議が実りあるものとなりますようご祈念申し上げまして、簡単でございますがあいさついたします。よろしくお願いいたします。

#### 5. 議 事

##### (1) 「おおいた子ども・子育て応援プラン及び県民会議の役割

【山岸会長】 それでは、議事(1)の「おおいた子ども・子育て応援プラン」及び県民会議の役割について、事務局から説明してください。

【事務局】 それでは、資料1と2に基づきまして、ご説明させていただきます。

資料1は、今年3月に作りました「おおいた子ども・子育て応援プラン」とその要約版でございます。資料2は、A4の横、「次世代育成支援対策の推進」という表題になっております。ご準備できましたでしょうか。

それでは、資料2をご覧ください。

一昨年、2年前になりますが、次世代育成支援対策推進法ができました。少子化に歯止めをかけるということで、そのためには専業主婦を含めた全ての家庭への子育て支援、併せま

して、男性を含めた働き方の見直しが必要であるという、この2点に添いまして、2種類の計画を作るようにこの法律では定められました。

左側に「地方公共団体行動計画の策定」と書いております。県と市町村は地域全体の子育て支援のための計画を作ることが義務づけられました。右側は、「事業主等行動計画の策定」、企業、特に301人以上の社員を抱える企業につきましては、自分たちの社員のための行動計画の策定と、[2]が特定事業主と申しまして、これは県や市町村も職員を抱えている一事業主として、職員が働きやすい職場づくりのための計画を作るということで、これも行動計画の策定が義務づけられました。右端に県内の策定状況を書いております。市町村の地域行動計画につきましては、県と同じように既に100%策定されております。ただし、働き方の見直しが必要な事業主の行動計画については、まだ100%という状況にはなっておりません。

県の行動計画が資料の1ということで、分厚い本体と要約版を載せておりますが、この要約版を開いていただきたいと思っております。

見開きの右側に、県の支援行動計画の概要を載せております。2つの基本目標を県としては立てました。子どもの視点で子どもが心身ともに健やかに育つ社会を目指す、大人の視点に立ちまして安心して子どもを生み育てられる社会の実現、この2つの基本目標を達成していくために、下の7つの基本の施策を考えました。

1つが、子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり、子育てをみんなで応援していこうという、まずは意識づくりであります。

その次が、地域における子育ての支援、子どもと子育て家庭に一番身近な地域でのサポートをこれから充実していこうということでございます。

3番目が、きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援。児童虐待など増加しておりますし、そういうことを防止するとともに、障害児やひとり親家庭など、ある面リスクが大きい家庭に対しては、もっときめ細かな施策を行政として取り組んでいこうということでございます。

4つ目が、子どもが健やかに生まれ育つ環境づくり、これは保健・医療の充実ということになります。

5つ目が、子どもの生きる力を育む教育環境づくり、子どもたちが自立した大人となっていくためには、教育というものは欠かせないということで教育環境づくり。

6番目が、子育ても仕事もしやすい環境づくり、男性を含めた全ての人の働き方の見直し、併せまして、若者の雇用の確保もこの章の中に入れております。

7つ目が、子どもにとって安心・安全なまちづくり。

いろんな事故、事件等ありますが、そういったことを払拭して子育てを安心してできるようなそういうまちづくりに取り組んでいこうということで、この7つの基本施策。

これらを5カ年の計画としておりますので、この5カ年間でどのくらい達成するかという具体的な目標を40項目立てております。この要約版には載っておりませんが、プラン本体の方に40項目載せております。保育のサービスもありますし、働き方の見直しについての具体的な目標数値も設けております。ページでいきますと、資料編の方の60ページということになります。後でご覧になっていただきたいと思っております。

こういった施策を県、行政だけでやっていくということではなくて、これはみんなで家庭

・地域・学校・職場で進めていかないといけないということになるわけですが、そのために、資料の2に戻っていただきたいんですが、資料の2の一番下、左下に、次世代育成支援対策地域協議会というものが書かれております。これはこの法律で、こういういろんな関係者の方々が集まって、いろんな施策について意見や協力をやっていただくという地域協議会をつくることのできるようになっておりますので、大分県としましては、本県民会議をこの協議会に位置づけて、これからこのおおいた子ども・子育て応援プランを推進していきたいと考えているところです。

実際に、では県民会議でどういう取組をするかといいますと、資料2の次のページをご覧ください。「子育て応援社会づくり」ということで、プランの着実な推進のために県としての役割と県民会議の役割を並べて書いております。

1つは、この次世代支援育成対策の集中的・計画的な推進でございます。県としましては、各部局が相互に密接に連携して、各種の施策を推進していきたい。それについても結果を公表していきたいとしておりますが、県民会議としましても、県の施策がどのくらい進んでいるか評価していただく、また、今やっている県の施策をさらに進めていくために、いろんなご提案、要望等をいただいて、協議を重ねていきたいと考えております。

2つ目が、県民総参加に向けた広報・啓発活動。県も広報誌やマスメディアの協力を得て、各種広報手段を活用してこの次世代育成支援の必要性をPRしていきたいと思いますが、県民会議の皆様方も、所属する各団体や事業所、また、個人の委員の方々が主体的にそれぞれの分野で具体的な取組を実施していただきたいと思っております。

そういった集大成としまして、今年度は計画の初年度にあたりますので、県としましても次世代育成支援元年と位置づけて積極的にやっていく、[3]として「県民フォーラム」（仮称ですが）この開催を県と県民会議の共催で行いたいと考えております。

こういったそれぞれの取組状況を、(3)ですが、情報公開を進めていきたい。

県としましても県のホームページに「大分県次世代育成支援のページ」を昨年度立ち上げておりますので、そこで他県の先進事例等も含めまして、いろんな情報をこのページに載せていきたいと考えております。併せまして、この県民会議につきましても、ホームページを作りまして、委員の皆さんの紹介や、委員の方々が所属する団体、事業所等の取組状況等積極的に広報して行って、気運を盛り上げていきたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

以上でございます。

【山岸会長】 ありがとうございます。

ここでご質問という形にしてもいいんですけど、次の2と密接に関係しますので、議事(2)と一緒に受けたいと思っておりますので、すみませんが、事務局の方から議事(2)の「県民会議の今後の取組」についてご説明をお願いいたします。

## (2) 県民会議の今後の取組

【事務局】 それでは、皆様方のお手元に配っております資料3をご覧ください。

平成17年度次世代育成支援対策関連事業と書かれております。これは今年度県の各部局が次世代育成支援のために取り組む事業をまとめたものでございます。

表紙をめくっていただきますと、関連事業を各部局ごと、また、項目ごとに書いておりますが、先程ご説明しましたプランの7つの基本施策に分類しまして整理しております。総数として、件数的には178件ですが、ご覧になってお分かりのように、「子どもの生きる力を育む教育環境づくり」の施策が一番多い。その次が「地域の子育て支援」ということになっております。県庁の各部局がそれぞれの分野で取り組むという表でございます。

次のページをご覧くださいと、その基本施策の項目ごとに個別の事業を列挙しております。1番が「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」ということで、事業本数としては、この項目は3つあります。表の部局名の次の欄に、特別枠というのがありますが、これは従来の予算をはみ出しますが、特別に必要ということで認められたものでございます。それと一番右端が区分となっており、アルファベットが載っておりますが、これはこの資料の一番最後のページ、26ページをご覧ください。プランの基本施策7項目に合わせまして、施策の方向という枝が出ておりますが、この区分のABCでどれに該当するかということを示したものでございます。

1ページに戻っていただきまして、事業を少しご説明しますと、1番の「子育て応援社会づくり推進事業」。これは計画の初年度ということで、地域の人材の確保や三世代交流をやっていこうというような事業です。2番目が「男女共生おおいた推進事業」。男女共に働きながら子育てをするということで、こういった意識づくりが必要ということで、事業として上げております。

2ページをご覧ください。「地域における子育ての支援」ということで、1番に「NPOステップアップ支援事業」。最近、子育て分野でのNPOの活動も大変活発になってきておりますが、こういったNPOの実力をさらにアップさせようという事業でございます。

続きまして、ページをめくっていただいて、4ページの17番「大分にこにこ保育支援事業」。経済的な支援ということで、保育料の軽減、第二子以降についての保育料を軽減するという事業でございます。

次のページ、5ページに30番「子どもの悩み電話相談事業」。これも子どもたちの悩み、親の子育ての不安といったものに対応するために、NPOを活用して電話相談事業、年間、夜間も受け付けるという事業ということでございます。

次のページをご覧ください。34番、警察本部で「地域協育力スキルアップ事業」。非行防止等については地域の地域力を向上させることが重要であるということで、この事業が特別枠として認められております。

7ページは「きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援」ということで、5番に「いつでも児童相談体制整備事業」。児童相談所の職員を増員して相談体制、24時間体制を充実させるという事業です。

ちょっと飛びますが、10ページをご覧ください。28番「学習障害児等支援体制整備事業」。LD（学習障害）とか注意欠陥多動性障害（ADHD）などの問題を抱える児童生徒への支援のため、養護学校に専門家チームを設置しまして、こういった専門家による支援の充実、巡回相談等を実施していくというような事業でございます。

11ページが「子どもが健やかに生まれ育つ環境づくり」ということで、2番に「子育て安心救急医療拠点づくり事業」。県立病院で24時間の重症な患者受入体制を整備するというものでございます。

次のページをご覧ください。11番で「子育て支援のための産後ケア調査研究事業」。出産後のお母さんの産後のケアについて今後の支援方法について調査するというものでございます。

13ページからは「子どもの生きる力を育む教育環境づくり」です。大変数が多いので飛ばしまして、15ページをご覧ください。18番「おおいた子ども大工道場運営事業」。ものづくりの大切さ、協調していろんなことに取り組むということをお学ばせるものです。

19番が『『おおいた教育の日』推進事業』。条例を制定して、11月1日「教育の日」を中心に教育について皆さんの関心を持ってもらうという事業でございます。

続いて、18ページの44番「ふるさと大好きっ子育て事業」。ふるさとを誇り、愛し支える人づくりということで、副読本を作ったりしていろんな郷土の理解をしてもらうという事業を組み立てております。

20ページの「子育ても仕事もしやすい環境づくり」の4番で「若年者総合就業支援事業」。若者の就職支援も大切だということで、「ジョブカフェおおいた」をサテライト的に各地につくりまして、若者の就業支援を行っていく、また、5番は「農業担い手確保育成総合対策事業」。所得の上がる農業、農家をつくるという事業でございます。

続きまして、22ページが「子どもにとって安心・安全なまちづくり」で、3番の「ユニバーサルデザイン推進事業」、初めから全ての人を使いやすいデザインをするという事業を、これは今年度別府市にモデルとしてやっていただくということになっております。

14番で「共生のまち整備事業」。これは県有施設のバリアフリー化ですが、平成20年の身障国体に向けての基盤整備ともいえるかと思えます。

こういった事業を各種やってるわけですが、今ご覧いただいた事業をもとに、説明が大変駆け足で申し訳なかったんですが、皆様方には報告様式1「県政への意見・提案シート」というものを準備いたしました。関心を持たれた事業や、力を入れてほしいという事業を選んでいただきたい。それと併せまして、県でこれからどういうことをやっていったらいいのかということを書いていただきたい。

それと、資料の4としまして、これは国レベルの国民会議の資料でございます。

【山岸会長】 すみません、ちょっとよろしいでしょうか。

途中で大変失礼ですけど、今ちょうど広瀬知事さんがみえましたので、知事さん、早速で申し訳ございません。ここでごあいさつをお願いできると有難いのですが、お願いできますでしょうか。

## 広瀬知事あいさつ

【大分県知事：広瀬勝貞】 皆さんおはようございます。遅参をいたしまして申し訳ありません。

おおいた子ども・子育て応援県民会議、初めての会合でございまして、一言ごあいさつを申し上げさせていただきます。

皆さん方には、県民会議の委員就任をお願いいたしましたところ、快くご承諾をいただきまして誠にありがとうございました。大変重要なテーマを担う重要な県民会議でございますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

もう申すまでもありませんけども、核家族化だとかあるいは生活の都市化といいますが、

そういう中で、家庭や地域における子育ての機能が低下しておりまして、大変憂慮されることであります。本県では、これまで安心して子どもを生み育てやすい環境づくりを推進していかねばならないということで、保育サービスの充実だとか、あるいは保育料の軽減だとか、あるいは乳幼児医療費の助成といった、子育てに伴う経済的な負担を軽減するということをやってまいりました。また、子どもを生み育てることに医療的な不安もあるということで、県立病院における総合周産期母子医療センターの整備などもやってまいりました。せっかく生まれた子どもたちが、虐待等で心痛む事態に追い込まれるのも耐えられないということで、虐待の防止等についても大いに力を入れてきているところであります。

しかしながら、少子化の流れに歯止めをかけるまでには至っておりませんで、県といたしましても、こうした状況を踏まえて、もう一段深い取組みを行うことが必要じゃないかということで、この3月に「おおいた子ども・子育て応援プラン」というのを策定したところであります。県では、このプランの下で本年度を次世代育成支援元年と位置づけまして、関係部局が密接な連携を取りながら、いろんな施策を総合的、計画的に推進していこうということにしているところでございます。

特に、今年度は社会全体による子育て支援の視点に立ちまして、地域の子育て支援者の確保だとか、あるいはNPOとの協働による次世代の育成支援を推進するほかに、児童虐待防止に向けた児童相談所の体制整備だとか、大分県立病院による小児重症患者の受入体制の整備だとか、あるいは「ジョブカフェ」による若年層の就職支援といったようなことにも取り組んでいるところであります。

さらに、7月1日から施行されました「青少年の健全育成に関する条例」等によりまして、青少年の健全育成にも引き続き力を入れていきたいというふうに考えているところでございます。

また、今年「教育の日」というのを定めまして、地域全体で子どもの教育についても考えていこうというようなことを考えているところでございます。

県内各界の代表の委員、あるいは公募による委員としてご出席いただきました皆さん方には、こうした大分県にとって大変大事なテーマ、そして県も一生懸命取り組んでるんですけども、なかなかまだ成果が上がってないという事態をよくご理解をいただきまして、是非この県民会議で実りある議論を賜ればと切にお願いする次第でございます。

そんなお願いをもちまして、私のごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

**【山岸会長】** ありがとうございます。

それでは、すみません、先程は失礼しました。続けていきたいと思っておりますので、どうぞご説明お願いいたします。

**【事務局】** 皆様にお配りしました報告様式1、2がございます。報告様式1は、県政への意見、要望等でございます。報告様式2は、それぞれの皆さん方が今後取り組もうとしていらっしゃる次世代育成支援について、団体の活動や事業所の活動、個人の活動等を書いて提出していただきたいと考えております。提出いただきましたものをもとに、次回の県民会議を開催したいと考えております。

それが資料の5、年間スケジュール（予定）となっております。既に日程を決めておりま



して、9月28日、皆様からいただきました要望、意見、それぞれの取組みについて、みんな協賛、検討をしたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(注：第2回会議は9月28日から9月13日に変更予定。)

以上でございます。

【山岸会長】 ありがとうございます。

それでは、議事の(1)(2)を続けてご説明いただきましたけども、これまでのところですね、どんなことでもよろしいですけども、最初に取り組みの報告様式1、2、それから日程がございましたけども、ここはこの事務局案でよろしいでしょうか。

(「異議なし。」との声)

【山岸会長】 それではご承認いただいたものとそこは進めさせていただきます。

それから、そのほかのところ、何かご意見等ありましたら、各団体、それから個人でも結構ですが、何かご質問等ございませんでしょうか。

【藤本委員】 この子育て応援プランの60ページに数値目標が掲げております。その中の上から7番「病後児保育実施施設」と書いてありますが、実はこれは用語としては不適切と申しましょか、この事業は「乳幼児健康支援一時預かり事業」でありまして、もし病後児保育実施施設となりますと、これは非常に限定されまして、保育所型の乳幼児健康支援一時預かり事業を表すんですね、ですからそうすると大分県の場合はこれはゼロ箇所になりますし、今後本当に12カ所に増やす、保育所型の乳幼児健康支援一時預かり事業を本当にやるのが企画計画されてるのかどうか確認しておきたいと思ひます。

もしこのような書き方、この病後のところに括弧を付けると、乳幼児健康支援一時預かり事業のいわゆる通称名といひましょか、便宜的な用語、実際はそういう用語はないんですけども、そういう使われ方をしてますので、ここに括弧を付ければそれなりに意味を持つとは思ひますが、元々これは事業名としてないので、訂正した方がよろしいんじゃないかというふうに思ひます。大分県において、保育所型のものを本当につくる予定があるんでしょうか。

【山岸会長】 事務局の方からご説明をお願いできますでしょうか。単純ミスであれば、そこで訂正でよろしいかと思ひます。

【藤本委員】 多分単純なミスだろうとは思ひてます。だからこれ全てを削除して名前を書き換えれば問題ないと思ひます。

【事務局】 これを策定するときに、「乳幼児健康支援一時預かり事業」という正式名称は十分承知してありますが、一般の方々に見ていただくのに、乳幼児健康支援というよりも「病後児保育」という言葉の方が、藤本先生がおっしゃるようによくした考え方でいくと違ってくるんですが、普通の方が見たときにはその方がわかりやすいんじゃないかということで、こういう書き方をさせていただいた次第です。病院併設型という形で進めていくつもりでございます。

【藤本委員】 そうですね、病後児も病児も両方とも正確な記載はどれもないんですが、改正された児童福祉法に、この病児と病後児を表わす言葉として明文化されておりますので、もしこれを書くのであれば、括弧を付けるようにしないとまずいと思ひます。

【山岸会長】 そこはいかがですかね。括弧を入れるということで今ご提案なんですが。

【藤本委員】 後に括弧を入れるんですね。

【事務局】 この後、皆様方に結果報告をする、このプラン自体はもう出来上がってしまっておりしますので、いろんな報告をするときに括弧書きを加えるということでご了解いただきたいと思います。

【藤本委員】 結果的に保育所型の、保育所併設型の乳幼児健康支援一時預かり事業を計画してるわけじゃないんですね。

【事務局】 そうではありません。

【山岸会長】 そういうわけではないということで、ここで括弧を入れる。この後の印刷物には括弧を入れて出しますということによろしゅうございましょうか。

【藤本委員】 そうですね。それからまた、もう既に計画が作成されておることから、現在行っておりますペリネイタル・ビジットにつきまして、多分この報告様式2という形でお答えすればいいのだろうと理解してますので、次回のときには是非加えて、はっきりした数値目標等も提示していただきたいと思います。

【山岸会長】 ありがとうございます。

今のように、何か急にそこが必要だとか修正とか、ございませんか。

(な し)

【山岸会長】 それでは、各団体におかれましてはそれぞれの立場から主体的な取組みの推進をお願いしたいと思います。また、皆様にご提出いただく書類もございまして、先程報告様式で説明がありましたけど、提出期限が8月19日となっていますので、期限までの提出についてご協力よろしくお願ひいたします。

それでは、(3)に進んでよろしゅうございましょうか。その後、また時間がありましたらご意見等をいただきたいと思います。それでは議事の(3)意見交換に入らせていただきます。

(事務局注)

育児等保健指導(ペリネイタル・ビジット)事業:産婦人科医と小児科医が連携し、子どもが生まれる前から小児科医による育児指導の機会を提供することで、育児不安の解消と生まれた子どものかかりつけ医の確保を図るもの。

### (3) 意見交換

今日は第1回目の県民会議ということで、委員の皆様全員にご発言をいただきたいと思っております。時間の都合上、お一人の発言時間は1分以内とさせていただきますけど、よろしゅうございましょうか。

まず、お名前とそれから活動団体名、又はお仕事の内容を簡単にご紹介いただき、次にお手元の資料6の「次世代育成支援のためのキーワード」、これをお出しいただいているんですけど、それについてお考えを簡潔にお話しいただければと思います。

では、名簿の順番、先程紹介していただいた順番になりますけど、お願ひいたします。青柳委員さんからよろしいですか。

【青柳委員】 皆さんおはようございます。一般の方から公募で応募いたしました青柳でございます。

一般4名のうち男性1人ということなので、一応お父さん代表ということで今日は来ております。

私は、こちらで仕事は新日鐵都市開発というところで、まちづくりを普段やってるんですけども、子どもが今4歳と、2月に生まれた子どもが5カ月ですね、おります。この2人を通じて、大分の子育ての素晴らしさというのを実感しております。上のお兄ちゃんは今何をやってるかという、近所で虫とり網を持って虫を捕って遊んでおります。昨日もバッタ10匹捕まえてきたんですけども、平成のこのご時世で虫捕りに興じてる子どもというのは私は大分で初めて見ました。私自身は東京出身なんですけれども、私も小さい頃、しております。というのはこれは大分ならではの子育てではないかというふうに感じます。

それから、下の子どもが2月に生まれたときに、私の妻も大分出身じゃございませんので、いろいろと出産のとき大変だったんですが、近所の人がお兄ちゃんを預かってくれたりとか、下の子の面倒をみてくれたりとか、そういう人のつながりというのが大分にはまだ残っているんだろうというふうに考えます。

私は、そういった意味で、子どもがのびのび育つ環境は大分こそ残っているのではないかというふうに考えまして、是非そのことを皆様に訴えたいということで応募させていただいたわけでございます。今後、私自身の仕事はまちづくりでございますが、そういった中で子どもを育てる環境づくりというものを考えていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

【山岸会長】 お父さんのしたことがない虫捕りを子どもさんがされてるという、ありがとうございました。それでは阿部委員さんどうぞ。

【阿部委員】 私の方はキーワードに『もっと楽しく子育てを！』というふうにしました。今ちょっと家庭にも学校にもゆとりがなさ過ぎるような気がしてなりません。今回の子育て支援のための各種プランを見せていただいて、素晴らしさというか、多岐にわたって考えられていることに素晴らしさを感じております。

今、学校では学力向上対策が急がれています。もちろんここの中にも数値目標で示されていますが、家庭が弱体化してるというか、そういうところから体力・気力が衰えているというのが実際です。自ら学び考える力を育てるゆとりがなさ過ぎることが一番問題じゃないかなと思います。このことに関しても、家庭でのコミュニケーション能力というか、そういったものを高めたいと思ってます。家族や友達との会話が減少したりとか、塾、社会、社会教育、テレビそういった時間に割かれるということが多くて、家庭でゆっくり団らんができない、規則正しい食事が取れない、それから早寝・早起きの習慣が身につかない、いろんなことで学校の方では抱える問題が随分様変わりしてきています。

私自身の子ども育て、学級の先生方をお願いしていることの中に、もう家庭も学校もない、境目はない、早寝・早起き、食事、対話こういったものを続けて、元気のある子どもを育てたいというふうに思っています。こういった子育て支援の利用する側の意欲にすべてかかっているんだと思いますけれども、貧弱というか、体質が弱くなっている家庭支援のためにも、学校としては意を用いなければいけないというふうに思っております。

【安倍委員】 私は日本助産師会に所属しております助産師の安倍でございます。

私どもの会の方では、各県支部に平成10年度から「子育て・女性健康支援センター」を設置して、母子支援活動を行っています。本県では、昔の先輩であるお産婆さん、現在、地域で活動している助産師というのが、大分県はたった50人ぐらいしかいません。私たちは母乳育児で悩んでいるお母さんへの支援といたしまして、「赤ちゃんとおっぱい電話相談」、

それから赤ちゃんの扱い方がわからないお母さんが非常に多いです。そういう両親のために「タッチケア教室」、それからおじいちゃん、おばあちゃんに今の子育てに参加してもらいたいという思いで「孫育て教室」、それから生殖医療が非常に進歩いたしまして、双子の出生が非常に増加いたしました。そのために「双子の支援活動」、それから大切な命を守るために「命の出前講座おおいた」というようなことをやっております。その後のフォローとして「思春期健康相談電話」等々の活動を現在行っているところです。

これらの活動を通しまして、お母さん方が子育てを一人で完璧にやろうとして頑張っている姿がうかがえるわけです。また、子どもたちが自分の命を、また、相手の命を、また、新しい命までも粗末にしているというような場面にも遭遇いたします。お母さん方は訴えてくださいます。「下駄履きで子どもをいつでも連れて行けるような場所が欲しい」、それから「近所にちょっと相談ができる人がいるといいな」と、常々そういうふうな活動を通しまして、地域ぐるみで今の若いお母さん方の子育てを支援していき、子どもたちの命を守っていきなさいいけないんじゃないかということをつくづく考えているところです。

**【池邊委員】** 県の社会福祉協議会の池邊でございます。

キーワードとして『家庭が主役』、副題で、『社会的評価を高めよう』ということにしております。

子育て応援プランの中心になるのがやっぱり家庭が主役ではなかろうかと、その視点を忘れたんではこの計画自体が実を結ばないんじゃないかなということで、『家庭が主役』というキーワードにしております。今、このプランで盛られてる内容以前の問題として、先日、合同新聞の記事にも出ておりましたけれども、親を見直さなければならないというような事態になってるんです。子どもの傷害事件、高校生とかそういうところの事件がものすごく多くなっております。そうしたときに、その原因は何がそういうふうなことになってるのかなということも考えなければならない。社会生活において最低限身につけておかなければならないものは何だろうか。資料1の中で、家庭では、基本的な生活習慣や社会のルールを身に付けさせましようということがあるんですけども、そのへんのところがどうも曖昧になってるのではなかろうかと。そういうことで家庭で子どもを育てるときに、基準となる最低限ここだけはというようなもの、私もキリスト教というのはあまりよくわかりませんが、モーゼの十戒にあるような、父母を大切にするとか、傷つけない、そして隣りの人の家を欲しがらないとか、そういうような基本的なところの考え方というか、そのへんの整理が今の世の中では曖昧になってるのではなかろうか。だからこういう会議で、そういうところをちょっと皆さんでお考えいただき、何か県民の方にお示ししていくと、育てるうえで、子育てのうえで参考になっていくのかなという気がしております。

そして、子育てといいますとほかの動物と違って20年間かかります。それを中心的にやっていくのが家庭だろうというふうに思っております。そういうことから、子育てに対する評価をもっと高めていく必要があるのではなかろうかということで、提案させていただいております。どうぞよろしく願いいたします。

**【石和委員】** この度県民会議の公募委員となりました、別府市在住の石和真紀子といいます。ただいま幼稚園年少組に通う3歳児とつかまり立ちが始まった10カ月の子の2児の母です。

母親になって3年余りですが、親になって初めてわかることがたくさんあります。子ども

は泣いたり笑ったり、時に私の腕の中で眠ってしまったり、自分の思いのまま、自分の時間の中で行動します。母親の思いどおりには動いてくれません。私自身ゆったりとした気持ちで、余裕を持って「子育ては大変です。だからこそ子育てが楽しいのです。」と言えるようになりたいと思っています。安心して子どもを生み育てやすい環境の実現、それは『誰にでもやさしい社会』になることだろうと考えます。子どもを欲しいと願っている夫婦、子育てに関わっている働くお母さん、そして私のような専業主婦、その子どもたちの父親であるお父さんたちからどのようなニーズを求められ、そしてそれに少しでも応えられるような環境、社会づくりのために意見を述べ、勉強させていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

【山岸会長】 ありがとうございます。

今のところで丁度5名終わったんですが、少し時間的に厳しいかなというふうに思いますので、大体今の方々の半分でお願いできれば、馬越さんから大変申し訳ありませんけど、よろしくお願いいたします。

【馬越委員】 私は大分県高等学校PTA連合会で、女性部の方で活動させていただいております。子どもが今高校2年生、上の子はもう成人しておりますが、年々子どもたちの人数が減っていくというのをもう目の当たりにしておりますので、本当にこれはどうにかしなければいけないのではないかなどと、県民の一人として考えてるわけなんですけれども、私が、ちょっと長くなりますね、ごめんなさい。『子育ての悩みをひとりで背負わないで』というキーワードにしたというのも、5年ほど前なんですけど、近くの子どもが冬の寒い日に外に裸のまま出されてたのを見て、これはもうただごとではないと思って、これはしつけなのか、虐待なのかという境のところで迷ったんですけれども、5分ほど続きましたので、私はその家に行って「これはもう虐待になる。」と、そこのお母さんは「もううちはしつけなんだから、他人がよけいなことを言うな。」ということで叱られましたけれども、こういうことは近所にいて迷惑だということで、「もし悩みがあるんだったら近所のお母さんたちとか私たちもいるんだから、相談してください。」ということをお伝えしたんですけれども、どれだけわかってくれたのかよくわからないんですけれども、少しでも近くの人間としてこれからも見守っていききたいなと思っております。

以上です。

【山岸会長】 すみませんでした。もっとたくさん内容はあったんでしょうけれども。それでは大嶋副会長さんは後の方ということで、太田委員さんからお願いします。

【太田委員】 太田恵子といたします。

私は大分県の児童養護施設協議会の方から来ました。市内にいくつかあるんですが、児童養護施設で保育士をしております。この児童養護施設というのは、家庭の事情があつて親と別れて暮らしている子どもさんたちを預かってるところです。そこから幼稚園や小学校、中学校、高校、もしくは専門学校に通っている子どもさんたちを預かっております。

そういうところから、私たちは子どもを見てとても感じるのは、やっぱり大人も健やかに育てなければ子どもたちも育っていかないのではないかなと、日々実感しております。だけど、親たちもその親たちなりに事情があつて、すごく心を痛めてる現実もあると。そういうところからこういう『大人も育とう 健やかに』というキーワードを上げました。

【岡部委員】 私は公務員でございます。別府市の福祉保健部長をしております。

キーワードとしまして『地域全体の子育てサポート』を上げております。核家族化が進む中、子育ての不安を相談できる人がいない、子どもとの接し方がわからないなど、育児の孤独感、不安感から悩んでいる母親が増加する傾向にあります。こうした中、行政としましては、多様な子育て支援サービスを効果的、効率的に提供するため、施設や環境の整備を行うことはもとより、市民や地域で活躍する人たちなど、地域子育て支援のネットワークを整備し、子育てに関して話し合うことで、母親の悩みなどを解消しながら育児能力を高めてもらうことを目指しております。

以上です。

【後藤みか委員】 後藤みかと申します。

私自身は社会福祉士という資格を持って、今フリーで仕事をしていますが、いくつかのNPO等に関わりながら、また私自身4人子どもがおります。小3、小2、5歳、3歳と4人子育てをする中で、やはり一番子育て、いい子に育てなければいけないという重圧を非常に感じているお母さん同士の会話、それから窮屈な中で育てられている子どもたちのいろんな思いとかを耳にすることも多くて、私のキーワードとして、非常に何か漢字で固苦しい感じで『当事者性、危機管理』というふうに挙げさせていただいたんですけれども、現役の子育て世代が意見を出しやすい仕組みを作っていくこと、商品開発とかそういうものをするときに、企業の方とかはモニター制度とか作って、利用者がどうであったというふうなものをフィードバックしてもらって、改善に役立てていくというふうなシステムがあります。だからそういうことで、現役世代が意見を出しやすい仕組みを作っていきたいなということ。

それから子育て中にはいろんなピンチがあるんですね。先程公募委員の方もおっしゃってましたけれども、2人目の出産であったり、トイレトレーニングとか偏食とか生活リズムのしつけ、ああこれもやらなきゃ、あれもやらなければというふうな感じで、非常に親にとってはいろんなストレスも加わるんですけれども、でも必ず解決策はあるというふうな前向きな視点で、早期からいろんな形で子育てに関わりながら、危機管理能力を養っていくということが必要ではないかなということ、その2つのキーワードを挙げさせていただきました。どうぞよろしく願いいたします。

【後藤美和委員】 現在、TOSテレビ大分で県政の広報番組「ほっとハートおおいた」を担当させていただいております後藤美和と申します。よろしく願いします。

今回、委員就任の依頼をいただいて、正直言いまして私、大変戸惑いました。というのがですね、実際少子化の主な要因となっております30代独身の私に、この子育てでやりたい何ができるのかということ、大変頭を抱えてしまったんですが、やはり、結婚、出産、子育てに向けて、現在独身の女性が抱えているいろいろな思いを、私代表としてここで述べさせていただければと思って、キーワードも『ネバーギブアップ』ということで参加させていただければと思っております。どうぞよろしく願いします。

【佐伯委員】 NHK大分放送局のアナウンサーしております、佐伯と申します。

42歳で1児の女の子（今10歳の女の子）の父親であります。転勤族でありまして、大分に来てからやはり大分は、青柳さんもおっしゃってございましたけれども、子育てにはいい環境があるなとは感じております。

で、私が上げたキーワードは『子どもを生みたくなる制度整備』というふうになりました。実際私自身はもう子どもを生む世代ではないんですけれども、感じるところでは、女性の仕

事の継続ができるか、というのと、知事もおっしゃってましたけども、経済的負担を実際どこまでカバーできるのかというところがポイントではないかと私自身は思っています。

あと、若い方の意見を直接聞いて入れていくのが必要ではないかなと感じております。よろしくをお願いします。

【佐藤委員】 大分県中小企業団体中央会の佐藤と申します。次世代育成支援対策推進センターの担当ということでまいりました。

簡潔に言います。私は今子どもが3人おります。今、若者の中で働きたい、働く意欲があるにも関わらず、パートあるいは臨時雇用しかないという現状がございます。これでは正社員の方との所得の格差、不安定な雇用状況のために将来設計ができない、子どもも生めない、希望もつなげないということがございます。こういう意味におきまして『雇用の確保』が『将来の希望』をつなぎ、安心して生み育てる社会をつくるということで、このキーワードを提案いたしました。よろしくお願ひいたします。

【柴田委員】 商工会議所連合会の女性会に所属しております柴田と申します。

実は、私どもの平均年齢は63.5歳になりました。既に子育てを皆さん終わってるんですけど、私が一番いいと感じるのは、三世代同居が珍しくないという環境じゃないかと思ひます。大きいことは何もできないんですけど、まず足元からみつめて、自分の子ども、そして向こう三軒両隣り、いわゆるいらん世話の時代ですが、子育てに限らず、病人が出たときはお隣りさんにお食事を届けるとか、いろいろ皆さんそれぞれやってますけど、実は子育てをするというのは、会員さんを守ってあげる、職員を守ってあげるということは、会社の宝ですから、それがないと私どもはみんな商売の世界ですから、会社が成り立っていきません。まずお父さんお母さんを助けてあげて、「あなたが困ったときはいつでもどうぞ。」という声で、ですから皆さん子どもの名前も、100人規模の会社ですけど、大体わかってるとおっしゃってます。身近なところ、足元から、これからも大きいことは本当にできません。手を差しのべて使ってほしいと願っております。以上でございます。

【白根委員】 白根直樹と申します。大分県青少年団体連絡協議会の代表としてここに出席させていただきました。元々は大分県連合青年団という青年団の団長を今しております。私自身が32歳で1歳と3か月の子どもが1人おります。子どもが生まれてみて初めて感じるというか、喜びというものと同時に、やはり育児の大変さといいますか、奥さんのストレスというか、そういったものも感じて大変なところだと思ひます。

やっぱり私たちの青年の問題というのが、ニートの問題であったり青少年の凶悪犯罪だとかたくさんあります。これもこの子育ての問題と全く同じ問題というか、ずっとつながっていく問題じゃないかなと思ひます。これから結婚、子育てをする、していく青年の代表としてここで意見を述べさせてもらったり、勉強させていただきたいと思ひますので、よろしくをお願いします。

青年団は、県下に私たち加盟しているのが15で、人数的には300人ぐらいです。

【仙波委員】 大分県経営者協会の仙波と申します。

私どもの団体では、次世代育成支援事業ということで、事業主の方々に職場において子育てのしやすい環境づくりをお願いしております。事業主の方々もすぐには規則等を変えるというのなかなか難しいところがありますが、その中で一生懸命取り組んでいただいておりますので、子育てしてる皆さんを応援しているよという気持ちが届くよう、声をかけながら

していければと思っております。簡単ですが。

【高浦委員】 連合大分の高浦といいます。職場はN T Tで働いております。子どもは2人おまして、下の子どもが今年の春就職いたしまして、子育てといえますか、ひとつほっとしたところですよ。

私はいつの時代も、子どもの目もそうですけど、子どもの未来は輝いていなければいけないと思ひまして、このキーワードに『輝ける子ども社会の創造』ということにいたしました。よろしくお願ひいたします。

【瀧本委員】 公募委員の瀧本久美です。よろしくお願ひします。

仕事は臨時ですが、育成クラブの指導員をしています。今、小3と小1、年中と3人の子育て真っ最中の親です。

キーワードとして『高過ぎる教育費』というのを挙げました。皆さんのお話を聞いていて何か私の意見はちょっと浮いているかなと思ひながらも、やっぱりどうしてもこれを挙げずにおれなかったんですね。

現にこちらの子育てプランの「おおいた子ども・子育て応援プラン」(注：13ページ)の中にも、予定子ども数が理想子ども数を下回る理由の第一位として、一般的に子どもを育てるのにお金がかかる、その第二位に、子どもの教育にお金がかかるというのがあるんですね。それも全国よりも大幅に大分県というのはパーセンテージが高くなっています。先程知事さんも言われてましたが、保育料の軽減とかというお話も出ましたが、現実問題これから先、定率減税の廃止というのがあります。その中で保育料は確実に上がるんじゃないかという不安は多くのお母さんが感じとっています。そういった中で、やっぱり教育費の問題というのは、いろんなお母さんに聞いた中でも、現実問題として「一番行政でやってほしいことは。」と聞かれば、「教育費をどうにかしてほしい。」という思ひを、たくさんのお母さんが言われていました。それに先進国の北欧とかの例を見ましても、イギリス、スウェーデン、フランス、ノルウェーなどの先進国の少子化に対する取組というのは、私たち子育て中の親から考えると、すごく羨ましい限りなんです。是非そういった、全て、よその国のことですから、そこまでできるというのは難しいかもしれませんが、少しでもそれに近づくような努力をしていただきたいなという思ひでこちらに来ました。よろしくお願ひしておきます。

【TOM G委員】 1人だけアルファベットで恐縮しております。

現在、FM大分の方でDJをしています。基本的にはフリーランスでございます。大分トリニータのスタジアムビッグ・アイでスタジアムDJもやっております。

この会議に参加したのは、実は僕は3人の子どもの父親でありまして、7・5・3歳と3人いますけども、前回、皆さんの手元にあります参考資料の3番ですけども、「PAPA・BON (パパ本)」という本にも編集委員として参加させていただきました。そういった経緯もありまして、今回も参加しております。

資料1の方の子育て応援プランの7つの基本施策の中にもありますけれども、「子どもの生きる力を育む教育環境づくり」という意味においては、僕は「物語文化の会」というところで宮沢賢治の童話の身体表現の活動もしております、子どもたちとそういった意味で関わる環境もつくっております。

今回、キーワードに『親子の絆、地域の絆』と書きましたけれども、たくさんの方のご指摘のとおり、やっぱり家庭が一番大事だということと、あとやっぱり少し大きいコミ



ユニティ、地域というところを挙げました。今、夏祭のシーズンでいろいろと地域の絆というのは深まっていると思いますけれども、そういったところで、どんどん絆を大切にしていきたいなと思います。そういった絆をつなぐという意味で言えば、僕も日々ラジオというメディアの方でリスナーとつながっておりますので、こういったプランだとかいろんなメッセージを、子育てに関するメッセージを発信できればなと思って参加しております。どうぞよろしくをお願いします。

【西村委員】 皆さんこんにちは。現在中3と小6の娘の子育て真っ最中で、大分市内の大分西中学校というところでPTA会長もさせていただいております西村と申します。覚えやすいですね、そんなことはないですか、西中の西村でございます。

まずは、こちらにお集まりの皆様方は本当に子育てのための会議に、貴重な時間を使ってお集まりいただけてますことに、本当に子育て世代の一人として心から深く感謝申し上げたいと思います。どれぐらい深くか、といいますと、これぐらい深くです。(注：テーブルの前に出て深くお辞儀。)

私の仕事は社会保険労務士、ご存じない方とかおなじみのない方もいらっしゃるかと思いますので、私は、皆さんになじみの人と一緒に今日は来ました。誰がなじみかといいますと、私の胸にありますのがカボたん。2年前に緑化フェアがありまして、そのときにボランティアをした時にいただいたシャツで、決して家でアイロンで付けてきたわけではございません。

私のキーワード『コミュニケーション』というふうになっておりますけれども、今なかなか若者がコミュニケーション苦手と言ってますが、そんなことは私はないと思ってます。ただ、私たちが一般的に使ってるコミュニケーションだと、取れないかもしれないけど、例えば私がこうやった(お辞儀)のもコミュニケーション、こうやって(カボたんのシャツを)お見せしたのもコミュニケーション、いろんな形でコミュニケーションを取りながら、若者が本来持つてる力を生かして自立支援をしていければな、というふうに思ってます。よろしくをお願いいたします。

【波多野委員】 臼杵高校の波多野と申します。

現在、私どもは高校生の教育をしております。3年間という凝縮された高校生活の中で、子どもたちが体当たりで学習や部活動やそれから生徒会活動やボランティア活動に取り組んでいくことで、苦しいけど、辛いけど、楽しいこともあるし、俺ってなかなかいいよなというように生徒に体感をしてもらいたいというふうに私自身は思っております。そのためには、学校の教師だけではなかなか難しい。したがって、親御さんですとか、それから地域の方と協力をして生徒は育てていかなければならないというふうに思っております。私は臼杵高校ですが、臼杵というとてもいい地域があって、いろんな人が住んでいて、そして自分たちがいて、“いいなあ”とお互いに感じ合えて子どもたちが育って、で、世の中に私の高校の生徒を送り出したいというふうに思っております。よろしくをお願いいたします。

【藤川委員】 OBS大分放送の藤川でございます。現在テレビ制作という職場にいまして、「かぼすタイム」とか「子育て広場」といった番組を担当しております。

その子育て広場など番組をやっていく中で、やっぱり「子育て楽しいな」という思いができなきゃといいますか、楽しく子育てできるということがひとつ大きなキーワードじゃないかなと思ひまして、私は『楽しく子育てできる社会の実現』というキーワードを挙げさせて

いただきました。例えば、一番身近で子育てにあたる保護者の皆さんの心が健康でないと、やっぱり楽しい子育てというのはつながっていかない。じゃどうすればいいのかということ、家庭で、地域社会で、職場で、学校で、行政でどういうことができるのかなということ、を考えていけば、少し道も見えてくるのかなと思ひまして、こういうものを挙げさせていただいたんですけども、また皆さんのご意見をお伺いしながら、考えをまとめていきたいなと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【藤本委員】 私は大分県医師会を代表して来ておりますが、小児科医で大分こども病院の院長です。

現在、県医師会では地域保健を担当しております。県医師会で推進しております事業は、『ペリネイタル・ビジット』とこの『病児保育』です。この2つは『究極の育児支援』というふうに提案しております。

なぜかと申しますと、まず育児不安が生じるのは、もちろん育児に対する知識が不足していることもありますが、実は現在では情報化社会で、情報がたくさんあるがためですね、子どもをこんなふうに育てなくちゃいけない、しかし、実際そんなふう育てられるだろうかという不安の方が大きいんですね。それからこんなふう育てなくちゃいけない、ねばならないという感情は、必ず緊張に結びつきます。この緊張と不安というのは非常にストレスになります。それが育児世代のお母さん方のストレスになってるわけです。

また、育児の困難を感じる時は、子どもが病気したときなんですね。これが一番困難を感じます。先程の乳幼児健康支援一時預かり事業、これ病児保育というんですが、これは国の施策としては、育児支援と就労の両立支援ということになっております。私どもはこの最も親が子どもを育てるときに困難を感じる病気のとときに、その困難さを軽減し、そして子どもが楽になる、つまり子育て支援というのは、子どもが育つということと、子どもを育てるということ、この2つの二面性からの支援がなきゃならないんですが、子どもが育つための支援は皆さん方随分おっしゃっていただきました。最も大事なものは、子どもが育つ環境だろうと思ひます。

それで、育てる時、一番困難である病気の時の子どもの回復力を高め、親たちへ子どもの病気のとときの対処の仕方をより細かく教えることができる、これが病児保育なんです。そういった意味で究極の育児支援と言っております。

ペリネイタル・ビジットに関しましては、これは子どもがおなかの中にいるとき、つまり胎児期から出生後までずっと引き続いた、連続した育児支援ということを目指しております。是非今度のこの企画の中にはこのペリネイタル・ビジットを入れていただきたいと思ひます。先程の報告様式2の方に詳しく書いて提案したいと思っております。

【牧野委員】 私は大分県私立幼稚園連合会から代表でまいりました。私自身は明野にあります牧野幼稚園、それからふじが丘にありますふじが丘幼稚園園長をさせていただいております。

このキーワードを考えると、『三つ子の魂百まで』ということをしりましたけども、その前に、子どもたちが平等に教育、それからいろんなことが平等に受けられる環境をつくっていただきたいということを入れようかと、2つ相当迷いましたけども、私はこの『三つ子の魂百まで』というのを選びました。

今、いろんな皆さんのお話を聞いて、やはり子どもたちを取り巻く環境は本当に、もう私

も何十年とやっておりますけれども、日々は気づきませんが、こういういろんな機会のありましたときに、ぽっと子どもたち、それから親御さんを見ますと、本当に子どもたち自身もすごく大変だろうなと思うこともありますし、お父さん、お母さんも本当に大変だと思うことがたくさんあります。先程からも幼稚園へやっていたりの方のいろんなお話も聞いて、本当に私どもはしっかりしないといけないなと改めて考えておりますけれども、やはりこの子どもたちは3歳までが私にとってとても大事だと思います。そして、やはり、家庭が一番主役でないと、いろんなことを言ったとしても子どもは育たないと思いますし、この子どもたちが将来どんなふうになるのかと思うと、私、教育をしておいてとても心配になりますし、これでいいのかなと日々考えることがたくさんございます。

それから、私立幼稚園を取り巻く、私立幼稚園だけじゃなくて幼稚園を取り巻く環境は今とても揺れておまして、幼保一元化とか、総合施設とかいろんな流れの中で、渦の中で今幼稚園がございまして。それでそういう渦中にいますと先が見えない部分がありますので、しっかり腰を据えて見ていかないといけないなと考えております。そういう幼稚園の問題はもちろん大事ですけども、やはりこれからの子どもたちをいかに育てていかないといけないかということを、私はこの会を通してしっかり学んで、そして幼稚園の他の先生方にも伝えられたらいいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

**【三宅委員】** 私は大分県民生委員児童委員協議会の代表としてまいりました、三宅と申し上げます。

大分県には、民生委員児童委員が2,858名、それから主任児童委員と申しまして、子どもだけ専用に扱っている民生委員が約300人います。それでキーワードを『あなたの子育て支える地域』といたしました。この方たちが全員いきいきと地域で子育て支援に励んでいただけますように、17年度の県民児協の事業計画といたしまして、5つ考えております。

その1つは、児童虐待や子育て不安を抱える家庭の発見と支援などの具体的活動の推進、2つ目といたしまして、児童委員活動強化推進モデル事業の実施として、子育てサロンの立ち上げを支援するという事で、県下6カ所に1年間5万円を支援しております。そして3つ目は、教育委員会、NPO、それから保健所など関係機関との連携を強化していこうというふうに思っております。そして4番目は、新生児ハッピーメール運動の推進といたしまして、これは新生児が誕生した世帯に対して葉書をお届けし、私たち民生委員の存在や活動をお知らせして、子育て不安や悩みを解消させる運動というのを去年からしておりますので、あと3年間、さらにこの活動を進めていこうとしております。そして、最後5つ目といたしまして、三世代交流事業の推進をしていこうと、こういうふうな計画をしております。

私自身は3人の息子を育て上げて、今25年ぐらいですけども、自宅で学習塾をしておりますので、ずっと子どもたちを見守ってきました。それでこういう会議で子どもたちに役に立つことが少しでもできればと思って、この会議に参加させていただいたことをとても感謝しております。よろしく願いいたします。

**【山本委員】** 大分合同新聞社で働いています山本吉純といたします。

普段、身の回りや、経済環境の中から結婚が、それだけが理由じゃないんでしょうけども結婚も難しいとか、子どもたくさん持てないとかいう話を聞いたりするので、キーワードには『経済・就労環境の充実』というのを挙げてみました。普段は取材の立場でこういう会場にはお邪魔することが多いんですが、席に座って何となくふわふわしています。まだ全

然視野が狭いので、勉強していこうと思います。よろしく申し上げます。

【吉川委員】 こんにちは。大分県PTA連合会で母親部として活動させていただいています吉川です。

保護者として、新聞、テレビで最近小学生同士の殺し合いとか、親が子どもを虐待するとか、最近では兄弟同士で殺人事件を起こすとか、もう親としてももう本当見ててつらいような記事やそういうのが本当多くなって、子育てをするうえでまず自分の子どもを、さっき知事さんからありましたけど、せっかく生まれてきてくれた子どもを、どういうふうに親として守っていくのかというので、常日頃から考えることが多いんですけども、とにかく子どもを育てるには家庭からという何人かの方の意見がもありましたけど、保護者として何を子どもにしてあげられるのか、何ができるのかということも考えて、『痛みと愛…ガマン』、子どもに親として教えられることを自分への課題としても挙げてみました。一人の親として、3人子どもがいるんですが、行政の方でこういう支援があればもう1人生めるのにとすることは数多くあるので、せっかくこういった機会をいただけたので、折をみて話す機会があればお伺いしたり話したりできたらと思っています。よろしく申し上げます。

【吉竹委員】 大分労働局の雇用均等室長の吉竹でございます。

私は大分の雇用均等室では最初の男性の室長ということで、昨年からの仕事をやっております。私どもはどうしても企業の皆さんに対する周知・啓発・指導といったようなことが中心になるものですから、キーワードとして働く場の問題ということで、『ワーク・ライフ・バランス』という言葉が挙げさせていただきました。

この理由としては、一人ひとりが働き方と子育て、また家族、それから自分自身の生活ということを見つめ直して、やはり生活バランスの取れた形で生活をしていくということが非常に大事かと思っております。そのための具体的ないろんな措置として、私どもでは育児なり介護なりの休業等の制度、それからもう1つの柱として、男女雇用機会均等法の制度について指導しておりますけれども、これは実は根っこの部分では非常に近いものがございまして、いろんな角度からこの両立支援といったことに対して努力しておるところでございます。ちなみに、先程紹介ありましたけれども、一般企業の事業主さんの行動計画ですけども、6月末で80%まで義務づけの企業に対しての届出が実施されております。県内の各企業の皆さん方のご協力を今後ともよろしくお願ひしたいと思うんですけども、先程委員の方から、従業員は会社の宝というお言葉がありましたけれども、私もそのように考えます。会社の宝であり、子どもというのが大分県の宝であり国の宝と、それとこうやってこういう会議等で取り組まれるこの取組ということ自体が大分県の宝というふうに考えたいと思います。微力ながらでございますが、私もこの会議のために努力させていただきたいと思ひます。

【大嶋委員】 大嶋でございます。現在は別府大学の人間関係学科というところで、社会福祉士とか精神保健福祉士とか、あと大学院の方では臨床心理士の養成を行っておりますけれども、短大の方での保育士とか介護福祉士の養成にもずっと携わってまいりました。

私はキーワードとして『子どもは授かりもの』ということをお挙げしました。非常に抽象、これから具体的なことが必要なときに非常に抽象的なことを言ってるようですけども、やっぱり命を大切にというようなことを学生たちに伝えたいという思いがすごくあります。残念ながら私は、その授かりものが得られなかった方の人間ですけども、でもたくさん育てるといふ部分に関わらせてもらっていることを嬉しく思っている人間です。声が震えてきま

したけれども、嬉しい学生たちもいるんですね。学生の時代に妊娠して、出産する人もいる、退学する人もいる、中絶する人もいる、そういう部分に関わりながらこの言葉を選ばせていただきました。去年、ちゃんと子どもを育てながら卒業していった学生たちもおります。以上でございます。

【山岸会長】 私も一言述べなければいけないかなと思いますが、私はキーワードとして『身近な第一次集団』と挙げさせていただきました。これは家族とか隣近所、地域社会、それから職場の中でいえば、狭い1つの部屋の中の例えば10人とか15人とかそういうところが第一次集団になる可能性が高いと思うんですが、以前ですと、これはかなり機能してたと思います。ところがだんだんとそこが陥没する形になりまして、個別にばらばらになり、そしてそれに代わって、私の印象では、専門家が出てくる、それから専門の施設が生れる、それから行政に依存するという形になったかと思うんですね。それはもちろん大事なことなんですけど、もう一回この第一次集団をきちんと新しい形で作っていかなくちゃいけないんじゃないだろうかと、そんなふうに思ってるところです。

最近、そうですね、今日、佐伯さんもおいでになりますので、NHKの番組でいえば新しい「ご近所の底力」をつくっていかなくちゃいけないのかなと思ってるところです。以上です。

それでは、皆さん方からお一言ずつお聞かせいただきました。だいぶ時間が迫ってきましたけど、せっかく知事さんが見えですので、ここでコメントをいただけると有難いんですが。1分に限定しませんのでどうぞ。

【広瀬知事】 いや、本当に皆さんのご意見を聞かせていただきまして、随分いい方々に県民会議のメンバーになっていただいたなと思ってます。深く子育てに関わっておられる方、あるいは実際に経験をしていろいろ悩んでおられる方等々、大変素晴らしいコメントで、本当にこれは何か生まれるかもしれないなという感じがいたしました。

いろいろ意見がございましたけども、1つには経済的な問題、側面を考えるべきだというお二方ぐらいおられたと思いますけども、これも本当に大事なことだと思います。日本は子育てにお金がかかるということが大変問題であるにも関わらず、子育てに割く経済的な配慮というのがまだまだ足りないと思いますし、このところはこれからの大きな課題ではないかと思えます。

それから、そういういろんな手当をしても、やっぱり子育てって負担だなと思う人も多いと思うんですけども、もう一つ大事なことは、これはたくさんの方が言っておられましたけれども、子育てというのは楽しいもんだと、苦労は多いんだけどやっぱり楽しいものだという事をみんなが思えるような、現に楽しくなるような社会を、子育ての苦労をカバーする楽しさというのは実際はたくさんあるわけで、そちらを強調できるような社会をつくるということは非常に大事なんじゃないかなと思えました。

私も4人の子どもがおりまして、みんな大きくなってますけれども、最近、集まると、我が家のカレーは本当にさらさらしてて、小学校の給食で初めて、カレーがこんなに濃いものかと思ったと。それからもう1つは、うちのハンバーグはいつも四角で、丸いもんだとは知らなかったというのはよく言われます。カレーの方は、もちろん経済的に、まだ育ち盛りの子どもですから、決して6人で食べるもんでなくて10人前ぐらい作らなくちゃいかんと、したがってルーをきつと儉約してたんだらうと思いますね。それからハンバーグの

方は、四角にしてたというのは、時間がないから丸めたりしないで、オープンに全部詰めて、後で切るということをやったんだろと思うんですね。子育ての楽しさというのを主張するときに、やっぱりお金もかかる、時間もかかる、それから空間も、子どもができればたくさん占められるわけですから、そういうことについてこんなに節約するんだと、こんなに手を抜くんだという悪知恵を教えるような人も結構大事なんじゃないかなと。そんなことで子育てはそんなに負担がかからないで、かつ、こんなに楽しいもんだということをお教えることが非常に大事なんじゃないかなと、もう皆さんのお話を承ってそんな感じがいたしました。

だからといって、経済的な負担の問題とかについて、それから医学的な不安の問題だとかそういうことを逃げるわけではありませんけども、そういう面も強調することが大事じゃないかなと思った次第です。本当にこの県民会議、大変何か出来そうな感じで楽しみにしております。よろしくをお願いします。

【山岸会長】 ありがとうございます。

ご飯の中にしみいるカレーを食べたかったら広瀬知事のところに…ということになるみたいですけど、ありがとうございます。

青柳さんいかがですか、今皆さんのご意見をお聞きしながら。今度はすみません1分に限定しますけど。

【青柳委員】 皆さんのお話聞いて、非常に子育てに真剣に取り組んでいらっしゃる方が多いなというふうに感じてます。それと同時に、皆さんやっぱり苦しんでいらっしゃるのも確かなんだろうなということも非常に感じます。私、先程子どもが虫捕りしてますと言いましたけれども、親も一緒になって楽しむということが一番大切だと思います。実は私もバツタ捕りは、バツタを捕るということ自体を昨日生まれて初めてしました。子どもと一緒にやると、子どもの方が先に見つかったり、非常に面白いと思います。大分にはそういう自然、それから地域の結びつきが残ってますんで、何か大分スタイルの子育てというのがあっていいんじゃないかなと。都会の子育てに真似する必要は全然ないんですね。大分は大分のいいところを取って子育てのやり方を考えたらどうかと思います。

【山岸会長】 ありがとうございます。丁度1分でございます。

大分の外からみえたからこそ、おっしゃられた発言かもしれませぬ。せっかく大分にはいろんないい環境があるということですので、私たちもそう思って見ると、大分はとても素晴らしい県なんじゃないかと思うんですね。そこを生かした子育てをしていければというふうに思います。

さて、議論は尽きませんが、そろそろ予定されていたというか、ちょっとオーバー、5分ぐらいオーバーしてるかもしれませんが。時間がきていますので、これで今日の議事は終了したいと思います。事務局の方から何か連絡事項等ありましたら、よろしくお願いいたします。

よろしいでしょうか。

それでは、長時間にわたって議事の進行にご協力いただきましてありがとうございます。ここでマイクを事務局の方にお返しいたします。

## 6. 閉会

【阿部部長】 本日は、本当に大変長時間にわたりまして、熱心なご議論いただきまして大

大変ありがとうございました。

皆さん、発言時間が制約されていたため、どうも言い足りないんじゃないかなというような感じがいたしますけれども、これからスタートでございますので。それから先程お願いしましたいろんな報告もの、あるいは私どももこの次世代育成に関しましては特に力を入れてやりたいということで、皆さんのご意見もなるべくお寄せいただこうと思っておりますので、事務局の方に、「今日言い損ねたな」とか「言いたかったな」というふうな部分がありましたらいつでもお寄せいただくことをお願い申し上げまして、皆さんにお礼を申し上げまして、本日の会議を終わらせていただきたいと思います。

大変ありがとうございました。